

ステークホルダーの皆さまへ

最先端技術で環境問題に取り組み、
付加価値の高い技術・サービスを
世界に提供します

代表取締役社長 **佐藤 潔**

この数年続いた半導体設備投資の活況により、東京エレクトロンは2008年3月期も継続して増収増益を果たし、2年連続で最高業績を更新することができました。アプリケーション別動向としては、DRAMやNANDフラッシュメモリ用の設備投資が中心となり、売上を大きく牽引してくれました。また地域別では、国内およびアジア地域の売上が拡大し、欧米は縮小傾向となり、半導体製造のアジアシフトがより進んでいることが鮮明となりました。一方、2007年にはメモリ製品の需給バランスが崩れ、設備発注が減速し始めましたが、十分な受注残が確保されていたために、目標としていた売上高をクリアすることができました。対照的に、フラット・パネル・ディスプレイ(FPD)製造装置部門の売上は低調な期となりましたが、年度後半から受注が急回復し、2009年3月期の売上として貢献することになります。これらの結果、年初目標とした売上高9,000億円を達成し、また営業利益率も計画を上回る18.6%となりました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物と感謝申し上げます。

2009年3月期に関しましては、低い受注残でのスタートとなりますので厳しい状況を想定しています。しかし周期的に上がり下がりするのが半導体、FPD製造装置市場の性質ですので、経費は抑制しながら、次の成長期により大きな成長を果たすための研究開発投資は積極的に推進してまいります。

昨年度の業績以外の成果として、工場の改革も進んでまいりました。製造面では東京エレクトロン九州の新工場が稼働を始め、主力製品の効率の良い生産を開始しています。宮城県においては、新工場の用地を確保し、2010年竣工の予定でさらに効率の高い工場の実現を目指して計画を進めています。開発面でも東京エ



クトロン技術研究所を設立し、新しいプラズマ技術を軸とした製品群の開発に取り組んでおり、新事業創出の核になることを期待しています。また、新しい分野への取り組みとして、太陽電池製造装置を開発する合併会社をシャープ株式会社との間に設立しました。地球環境を改善していくことは企業の使命であると宣言いたしました。とりわけ、省エネルギーデバイス製造装置および太陽電池製造装置関連は当社の技術をもって参画できる分野です。これらは社会の要請に応えるとともに長期にわたり大きな事業に発展する可能性を持った分野ですので、積極的に進めていきたいと思えます。

このように各所に布石を打ち、中長期に渡る東京エレクトロンの成長を実現してまいります。今後とも皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Handwritten signature of Tsuyoshi Sato in black ink.

代表取締役社長 佐藤 潔